

ひょうごの 赤十字



2016. 11 月
November



今年も各地で地域赤十字奉仕団員研修会を開催
秋篠宮同妃両殿下が多可赤十字病院をご視察
大雨災害に備えた救護訓練に参加
災害現場での取るべき行動を体験
「世界の宝-いのちを救った手製の赤十字旗」を見学
イベントの秋、赤十字をPR
第34回「海外たすけあい」募金キャンペーンがはじまります
講習のご案内

特集

「災害から守る力」
を育てる



 日本赤十字社 兵庫県支部
Japanese Red Cross Society

〒651-0073 神戸市中央区臨浜海岸通1丁目4番5号



078-241-9889



赤十字 兵庫

検索



「災害から守る力」を 育てる

～兵庫県中学校高等学校青少年赤十字防災キャンプを開催～

多発・多様化する自然災害から自分の身を守り、ライフラインなどが途絶えた状況下にあっても生き抜くために必要な知識と技術を身につけると共に、自助・共助の大切さを実践的に学び、ボランティアの心を育てることを目的とした「兵庫県中学校高等学校青少年赤十字防災キャンプ」を、9月18～19日にエオの森研修センター（三木市）で開催し、県内の青少年



避難所で必要な物を考えるメンバー。
答えがないため難しいといった感想も



班の団結力が深まったとの感想も聞かれた
段ボールを使った簡易トイレ作り

赤十字加盟校から中・高校生メンバー31人が参加しました。

災害の基礎知識や被害状況などの講義の他、自分が避難所を運営しなければならない立場になった時、年齢や性別、国籍などが違う人々や出来事にどう対応していくかを考えるゲームや段ボール簡易トイレ作り、無線機を使った通信、非常食作りなどに取り組みました。

悪天候により一部プログラムの変更を余儀なくされましたが、参加したメンバーからは、「参加して良かった」「災害なんて自分に関係ないと思っていたが、誰でも被災者になり得ると気付かされた」「知らないメンバーとも仲良くなれた経験を避難所でも生かしたい」などの感想がありました。



赤十字奉仕団

今年も各地で地域赤十字奉仕団員研修会を開催

「苦しんでいる人を助けたい」という赤十字の使命を地域で実践する地域赤十字奉仕団は、市区町村ごとに組織され、高齢者支援や子育て支援、炊き出しや救援物資の配布といった災害時の被災者支援など、地域に根ざした活動を行っています。



各家庭や地域などで取り組んでいる災害への
備えや今後の課題を話し合う団員の皆さん

兵庫県支部では、地域の最前線で活動する奉仕団の皆さんに赤十字への理解を深めていただき、さらに充実した活動につなげていただくため、必要な知識や技術を身に付ける研修会を毎年開催しています。県内6カ所で開催された今回は、災害への備えをテーマに、講義やグループワーク、非常食作りと試食、心肺蘇生法とAEDの使い方の実技などに取り組んでいただきました。

開催日	開催地域	参加人数
10月 4日	淡路	28人
10月 6日	但馬	24人
10月12日	丹波・北播磨	32人
10月14日	西播磨	37人
10月18日	神戸・阪神	63人
10月20日	東播磨・中播磨	33人



「強く早く」と、思った以上に体力が
必要な胸骨圧迫に取り組む団員

いのちと健康を守る赤十字活動は、
皆さまから寄せいただく活動資金で成り立っています

活動資金にご協力をお願いします



平成28年度
新たな災害救護支援センターを整備!!
大規模災害に備え、全国各地の被災地への
支援や全国からの受援の拠点となる施設
の整備を計画しています。(場所:三木市)

郵便局・ゆうちょ銀行からもご協力いただけます

口座記号番号：01110-0-1136
口座加入者名：日本赤十字社兵庫県支部

※窓口で取扱いの場合、振込手数料は無料です。



赤十字病院

秋篠宮同妃両殿下が多可赤十字病院をご視察

9月15日、敬老の日発祥の地である多可町で開かれた「敬老の日制定50周年記念式典」にご臨席になった秋篠宮同妃両殿下が、多可赤十字病院を視察されました。

多可町で唯一の公的病院として地域医療の中核を担う同病院は、医療や介護、福祉の専門職と行政、住民が連携し、老後に至るまで住み慣れた居宅・地域で安心して住み続けることができる地域づくり(地域包括ケアネットワーク)に取り組んでいます。

地域医療の先駆者である松浦院長をはじめ森本看護部長や社会福祉士らと懇談された両殿下は、全国初の老人保健施設として昭和63年に開設された同病院併設の多可赤十字老人保健施設をご視察。入所されている方々と一緒に、紙テープで作った花を模造紙に張っていく作業療法も体験されました。



国内災害救護

大雨災害に備えた救護訓練に参加

～三木市総合防災訓練～



関係団体と連携し、負傷者を後方搬送する
多可赤十字病院の救護班

9月25日、三木市総合防災訓練が三木山総合公園陸上競技場で行われ、兵庫県支部と多可赤十字病院が参加しました。

訓練は、台風に伴う大雨により山が大規模崩落し集合住宅が埋没したと想定。消防救助隊や自衛隊などと連携し、災害現場から搬送されてきた人々のトリアージ(治療優先度の選別)や後方搬送の流れを確認しました。

また、軽症者エリアでは、負傷者役などで参加されていた市民の方々に、三角巾を用いた応急手当の講習も行いました。



看護師養成

災害現場での取るべき行動を体験

～姫路赤十字看護専門学校トレーニングセンター～

地震、豪雨、火山噴火など、今年も各地で自然災害が多発しています。

姫路赤十字看護専門学校では、10月13日に宍粟市生涯学習センター学遊館において経験型学習「トレーニングセンター」を開催し、基礎行動訓練の他、救護資機材の取り扱いや地震災害を想定した災害救護訓練に取り組みました。

災害救護訓練では、医師や看護師、主事に扮した2年生が赤十字救護班として互いに協力しながら、傷病者役を熱演する1年生の救護に当たりました。今年も外国人の傷病者役があり、言葉が通じない中での救護活動も経験。自分たちの知識や技術の未熟さに悔しがる姿も見られましたが、話し合いや練習などの事前準備を通して災害救護活動への理解を深め、メンバー間で協力する必要性についても学ぶことができました。



慌てず、でも早く正確に！
災害救護訓練で、傷病者の血圧を測定する
看護師役の学生



日赤有功会

「世界の宝ーいのちを救った手製の赤十字旗」を見学

～兵庫県日赤有功会が視察旅行～

10月13日、日頃から赤十字活動に多大なお力添えをいただいている兵庫県日赤有功会の皆さまが、視察旅行として青森県支部を訪問しました。

青森県支部には、三角巾2枚と赤い毛布を切り裂いて縫い合わせた赤十字旗が展示されています。この旗は、明治38年、日露戦争下の満州に軍医として従軍した青森県出身の医師「三上剛太郎」が、負傷兵の手当て中にロシア兵に包囲され全滅の危機に瀕した際に、戦時下における負傷兵の保護を定めたジュネーブ条約を思い出しとっさに作成。高々と掲げられた旗を見たロシア兵は攻撃を止め立ち去り、ロシア兵1人を含む70余人のいのちを救ったと言われています。

この旗を見学された有功会の皆さまは、青森県有功会会長をはじめ関係の皆さまと意見交換などで親睦も深められ、国際人道法の大切さを感じる有意義な訪問となりました。



「手製の赤十字旗」前にて記念撮影



広報活動

イベントの秋、赤十字をPR

兵庫県支部では、若い人たちへ赤十字を知っていただき、身近に感じていただこうと、県内で開催されるイベントへ積極的に参加しています。

10/15・16

東条湖おもちゃ王国 はたらくるま大集合!

キッズ救護服&ナース服を着て救急車や献血バスに乗車していただきました。普段は乗車することができない車に触れた子どもたちはもちろん、そのかわいい姿に大人も大喜びでした。



「はたらくるま大集合!」の様子



10/29・30

ふれあいの祭典 健康福祉まつり

キッズ救護服&ナース服姿になった子どもたちの写真で缶バッジを作成しプレゼントした他、赤十字マークのパズルやハートラちゃん福笑いなどのゲームで赤十字をPRしました。



第34回「海外たすけあい」募金キャンペーンがはじまります

期間:12月1～25日

皆さまからお寄せいただいた募金は、アジア、中東、アフリカを中心に①紛争で苦しむ人々への支援、②災害で苦しむ人々への支援、③病気から身を守るための支援に役立てられます。

講習のご案内

救急法基礎(1日受講)

1/8①
13:00～17:30

救急法救急員養成(2日間受講)

12/17②・18② ※受講対象は
基礎講習修了者
9:30～17:30

救急法基礎・救急員養成(3日間受講)

12/23③・24③・25③
1/9④・14④・15④ } 9:30～17:30

科目別講習 講習の一部のテーマを短時間で習得できます。

幼児
安全法 「子どもの病気と看病のしかた」
1/22② 10:00～12:00

幼児
安全法 「乳幼児の一次救命処置(PBLS)」
1/22② 13:00～15:00

◇申込期日は開催日(初日)の1カ月前までです。 ◇会場は日本赤十字社兵庫県支部です。

お問い合わせは、お電話またはホームページで ☎ 078-241-1499 (講習係)